

資料館だより

第42号

平成17年(2005)

3月25日

編集・発行 市立歴史民俗資料館 〒208-0004 東京都武蔵村山市本町5-21-1 TEL 042(560)6620
ホームページアドレス <http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/shiryokan.html>



資料館のエントランス



展示室内の様子1



展示室内の様子2



DVDビデオコーナー

常設展示リニューアルオープン (平成17年4月1日(金)より)

武蔵村山市立歴史民俗資料館は、昭和56年11月にオープンしました。それ以後、市の歴史や文化などを理解してもらうための施設としてその役割を果たしてきました。

開館から20年以上がたち、その間に資料館の研究活動や市史編さん事業の成果などが数多く生まれました。市民や利用者のニーズも変化し、狭山丘陵の自然への関心が高まり、考古学や歴史学、民俗学の学問的分野においても環境考古学、環境歴史学、環境民俗学などの自然環境を対象とした諸学問も生まれてきました。市内では都立野山北・六道山公園の中に里山体験施設が生まれるな

どの変化もありました。

また、多摩地区にもその間にたくさんの資料館や博物館ができ、本館と展示内容の類似するものも生まれ、武蔵村山市の独自性を求められるようになりました。

リニューアルオープンするにあたり、こうしたことをふまえ、「^{ヤマ}丘陵と^{ハラ}台地が育む生命のあゆみ～人と自然との共生～」をテーマとし、展示替えを行いました。この展示につきましては、多くの方々のご指導・ご協力をいただきました。リニューアルオープンは平成17年4月1日です。

リニューアル展示の構成と、その紹介

武蔵村山市の歴史と文化は、狭山丘陵とその延長線上にある武蔵野台地との関わりの中にあるといっても過言ではありません。その点に着目し今回はリニューアルすることとなりました。本資料館の常設展示は「丘陵と台地に生きた人々」「丘陵と台地が育む武蔵村山の歴史と伝統文化」「里山」と人々の暮らしの三つのエリアに分かれることとなります。



歴史散策コース（市域）模型

1、丘陵と台地に生きた人々

このエリアでは、武蔵村山市を構成する狭山丘陵と武蔵野台地はいかにしてでき、それを人々がどのようにして利用してきたのかを地質学、考古学、歴史学、植物学などの分野の成果を学際的にまとめて見ていきます。その中で、近年、注目される「里山」が形成されていく過程がわかるようになっています。同時に武蔵村山市域に人々が住み、村、町、市になっていく過程がおえるようになっています。

また、各時代において、一つのトピックスを取り上げ、より深くその時代や文化に興味を持ってもらえるような工夫もしました。

○丘陵と台地の誕生

（日本列島のなりたち・狭山丘陵と武蔵野台地の形成・狭山丘陵と化石）

○吉祥山遺跡8号住居のカマドの復元

○人と自然との共生のはじまり

○丘陵の生活

○谷戸の開発

○丘陵から台地へ～新田開発～

○「里山」の芽生え

○変容する景観

○台地の都市化と原風景

○武蔵村山の歴史と文化（年表）



吉祥山遺跡8号住居カマドの復元模型



丘陵と台地に生きた人々

（主な展示品）

市指定有形文化財

『屋敷山遺跡出土 人面装飾付土器』

市指定有形文化財

『屋敷山遺跡出土 中世常滑窯大甕』

2、丘陵と台地が育む武蔵村山の歴史と伝統文化

丘陵と台地の上に花開いた武蔵村山市の歴史と伝統文化の一部をこのエリアで紹介します。村山大島紬などが丘陵や台地との関わりの中で、どのように展開してきたのかを年表や図などを用いながら説明してあります。

○狭山丘陵の諸職

（指田日記・火鉢屋関連品・木地屋関連文書）

○村山織物の歴史

○多摩地域で流行した双盤念仏

○戦時下の丘陵と台地

○湖をつくった軽便鉄道



丘陵と台地が育む武蔵村山の歴史と伝統文化
（特別展示コーナー）

(主な展示品)

都指定無形民俗文化財『薬師念仏鉦はり』関連品
都指定無形文化財『村山大島紬』関連品
市指定有形文化財『指田日記』

なお、リニューアルにともない『指田日記(原本)』が所有者の御好意により資料館にて展示させていただけることになりました。

3、「里山」と人々の暮らし

このエリアでは、近年着目されている「里山」とは、どういったものなのか、その利用方法はどのようなものなのか、そこで生きた人々の生活と自然には何があるのかを民具や動植物標本を通じて紹介します。武蔵村山市にあった農家の一部屋をイメージした展示や雑木林をイメージした展示があります。

○鎮守の森と郷土芸能

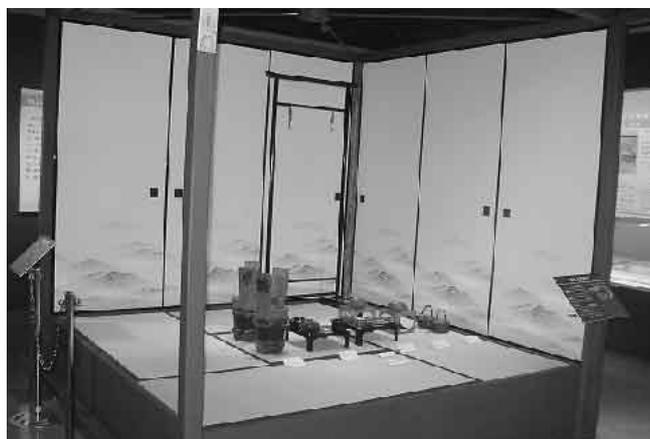
○生活空間

(ある農家の間取り・婚礼と膳碗蔵)

○武蔵村山の昔がたり

○屋敷地と屋敷林

○里山の土地利用と生業



婚礼と膳碗蔵



雑木林と湿地の生き物たち

○雑木林の植生

○雑木林と湿地の生き物たち

(主な展示品)

市指定無形民俗文化財「重松囃子」関連品

市指定無形民俗文化財

「三ツ木天王様祇園ばやし」関連品

4、DVDビデオコーナー

資料館で見られるDVDも新しくなりました。市史編さん事業の成果等をふまえ、新たに撮影したものや再編成をしました。以前よりも鑑賞者の郷土理解を深めるような内容をめざしました。タイトルは以下の20本となります。

	タ イ ト ル
1	武蔵村山市の指定文化財①
2	武蔵村山市の指定文化財②
3	武蔵武山市の神社・仏閣
4	武蔵村山市の石仏と板碑
5	武蔵村山市の郷土芸能① ー横中馬獅子舞、重松囃子ー
6	武蔵村山市の郷土芸能② ー三ツ木天王様祇園ばやし、薬師念仏鉦はりー
7	武蔵村山市の遺跡
8	武蔵村山市の手工芸① ーだるまづくりー
9	武蔵村山市の手工芸② ー羽子板づくりー
10	武蔵村山市の手工芸③ ー御神酒の口づくりー
11	武蔵村山市の伝統的産業 ー村山大島紬ー
12	武蔵村山市の伝統的産業 ー狭山茶ー
13	武蔵村山市の街道
14	武蔵村山市の自然① ー里山の景観ー
15	武蔵村山市の自然② ー春の動植物ー
16	武蔵村山市の自然③ ー夏の動植物ー
17	武蔵村山市の自然④ ー秋、冬の動植物ー
18	武蔵村山市の自然⑤ ー地質・化石ー
19	武蔵村山市の歴史
20	武蔵村山市を走った軽便鉄道

上記の中で「武蔵村山市の指定文化財②」「武蔵村山市の自然① ー里山の景観ー」「武蔵村山市の自然⑤ ー地質・化石ー」「武蔵村山市を走った軽便鉄道」は新規のものとなります。

以上のように資料館は大幅にリニューアルがなされましたので、この機会にぜひご覧下さい。

(文責・歴史民俗資料館学芸員 福西大輔)

寄贈資料（平成16年度）

※五十音順、敬称略

	寄 贈 者	寄 贈 資 料 名	数 量
1	網 代 光 年	三ツ木天王ばやし関連資料	5 点
2	荒 井 三 男	学年新聞	1 点
3	石 川 伊三郎	拓 本	1 点
4	井 上 昇	写 真	1 点
5	今 泉 好 男	古地図	1 点
6	内 野 敏 男	マ ュ	44個
7	榎 本 光 好	土器片	数十点
8	指 田 政 明	感謝状	1 点
9	沢 登 文 雄	少年飛行兵関連資料	8 点
10	少 飛 会	少年飛行兵関連資料	2 点
11	リサイクルセンターかたくり	押絵羽子板	1 点

平成17年度の主な事業（予定）

※実施時期等は変更となる場合があります（詳細は市報等でお知らせいたします）

	事 業 内 容	期 間
1	常設展示「丘陵と台地が育む生命のあゆみ」	通 年
2	季節展「五月人形」・他	随 時
3	夏休み企画展	7～8月
4	特 別 展	10月～12月
5	歴史・自然講座、体験学習	随 時

●今年度の特別展は「年中行事（仮）」を開催する予定です。

<歴史民俗資料館からのお知らせ>

- ◆文化財資料集第25集『注解指田日記』（上巻）～村の陰陽師「指田撰津」の日々の記録～が4月以降に刊行されます。下巻は来年度以降刊行される予定です。
- ◆『武蔵村山市史調査報告書第13集 諸家文書目録（2）』が4月以降に刊行される予定です。
- ◆資料館の館名看板を新たに設置しました。
- ◆市内にある文化財紹介の看板も一部新しくなりました。吉祥山遺跡に設置されている『遺跡概要説明板』をはじめ、指田家の『指田日記』の解説板も明治4年分の日記を追加指定したことにより新しくしました。